

保幼小連携の取組みについて



本市は、平成17年度に3小学校区で保幼小連携のモデル事業を実施し、その成果を報告書として市内全保育所・幼稚園・小学校に配布するなどの取組みを始めました。

平成23年度からは、それまでに育まれた保幼小連携の土壌に、新たな種を蒔く取組みを始めました。連携推進に関する協議や情報の伝達を行うための「保幼小連携推進連絡協議会」の設置、連携推進のガイドブック的役割を果たす保幼小連携プログラム「つながる」の作成・配布、保幼小連携研修会の実施などです。

平成24年度には、保幼小連携のためのキーパーソンとして、すべての保育所、幼稚園、小学校に「連携担当者」をおいていただき、その名簿を、作成・配布しました。また、全市の連携担当者が一堂に会する「保幼小連携担当者交流会」を、初めて開催しました。

こうした取組みにより、市内の保幼小連携事業を実施する保育所、幼稚園、小学校の割合は、着実に増加してきています。

本市では、これからも幅広い取組みにより、さらなる保幼小の連携を推進してまいります。



「保幼小連携担当者交流会」の様子

市内の約300人の連携担当者が一堂に会し、グループごとに自己紹介、意見交換等を行いました。参加者からは「保幼小の連携担当者が顔を合わせることが出来る、こうした取組みはとても有意義でした。」といった意見が寄せられ大変好評でした。みなさん是非ご参加ください！

保幼小連携に向けて

北九州市保幼小連携推進連絡協議会会員
鳴門教育大学 大学院教授

木下 光二 先生



連携推進プログラムもいよいよ実践編になりましたが、どの紙面も生き生きとした写真と共に充実した連携の様子がよく伝わってきます。子ども達ばかりか、先生方自身も学び合っていることに本プログラムの意味と重要性を感じています。

文部科学省では連携を推進するため、「学びの芽生えから自覚的な学びへ」をキーワードの1つにしています。保幼小それぞれの具体的な実践や交流を手がかりに、幼児や児童が日々の教育活動や交流活動の中で何を学び、何が育っているのかを明らかにしていこうというものです。今後もお互いに手を携えて学びの芽生えを追究し、子どもの幸せのために邁進してほしいと思います。北九州市で始められた取組みが、全国の道しるべになることを大いに期待しています。